

令和元年度第3回習志野市市民協働こども発達支援推進協議会議事録

1. 開催日時 令和2年2月13日（木）午後2時～4時
2. 開催場所 ゆいまーる習志野 福祉交流スペース
3. 出席者

所 属	氏 名	出欠席	所 属	氏 名	出欠席
市民委員	阿部 友理	○	市民委員	伊藤 希実子	○
	遠藤 美里	○		松尾 公平	○
	奥津 佳奈	○	健康支援課	児玉 紀久子	○
	本宮 隆	○	障がい福祉課	荒井 直樹	○
	大塩 幸雄	○	こども政策課	小平 修	○
	太田 俊己	○	こども保育課	永田 容子	○
	田村 光子	○	ひまわり発達相談センター	北田 順一	○
	上野 基江	○	学校教育部指導課	嶋野 隆文	○
	小野寺 明美	○	総合教育センター	深作 拓也	○
出席					18名
欠席					0名

事務局等 こども部 小平次長

習志野市発達支援サポートネットワーク会議

嶋野会長（指導課）、永田副会長（こども保育課）

ひまわり発達相談センター 内村主幹、續主査、吉村、竹内

傍聴人 なし

4. 議題

- (1) 習志野市市民協働こども発達支援推進協議会
 - (1-①) 発達支援施策の推進について
 - (1-②) ライフサポートファイルについて
 - (1-③) きらっといっぽの会の活動について
- (2) ひまわり発達相談センター評価部会（市民委員）
 - (2-①) ひまわり発達相談センターの事業実績及び保護者アンケートの結果報告
 - (2-②) 今後の取組みについて

5. 会議資料

会議次第

席次表

- (1) 習志野市市民協働こども発達支援推進協議会
 - 資料1 習志野市子ども・子育て支援事業計画（案）
 - 資料2 習志野市子ども・子育て支援事業計画（案）修正箇所

- 資料3 ライフサポートファイルのモニター協力アンケート1回目
- 資料4 ライフサポートファイルのモニター協力アンケート2回目
- 資料5 ライフサポートファイル令和2年4月からの運用開始について

当日配布資料1 ライフサポートファイル(案)

当日配布資料2 令和2年度会議等予定

当日配布資料3 令和元年度谷津連合町会主催防災訓練

当日配布資料4 習志野市障がい者地域共生協議会ならたく vol.21(案)

当日配布資料5 きらっといっぽの会ホームページ案内

(2) ひまわり発達相談センター評価部会(市民委員)

資料1 ひまわり発達相談センターの事業実績

資料2 保護者アンケートについて

資料3 令和元年度保護者アンケート集計結果

資料4 平成30年度保護者アンケート集計結果

6. 議事内容

会議録署名委員に阿部副会長を指名。

(1) 習志野市市民協働こども発達支援推進協議会

(1-①) 発達支援施策の推進について

習志野市発達支援サポートネットワーク会議 嶋野会長より資料1及び2について説明。

【嶋野委員】市民協働こども発達支援推進協議会より頂いた御意見について検討し、子ども・子育て会議事務局や各事業担当課と連携して修正・追加した結果を御報告する。資料1は第1回会議、資料2は第2回会議で頂戴した御意見を取りまとめたものである。

【大塩会長】第1回会議、第2回会議の意見を受け、ソーシャル・インクルージョンの視点が盛り込まれて修正されている。丁寧に配慮されたものになってきている。今後の取組みについて具体的に伺いたい。

【永田委員】各施設長の会議で見直しの意味を含め周知して、一緒に考えていけるように努力したい。保育現場では、どのお子さんにもわかりやすいように、実際にいろいろな取組みがなされていると感じる。臨床心理士の先生と、視覚的な説明やクールダウンなど環境設定を考え、その子を含めた学級運営に取り組んでいる。今後も継続して進めたい。

【深作委員】学校ではユニバーサルデザインやICT関係の整備に取り組んでいる。現在だと教室前面の黒板にどの子も集中できるように、光が反射したり色が派手だったりするものを外したりカーテンで隠したりしている。また、適応指導教室に通う子に学校から貸与のタブレットを渡している。活用して四則計算などができるように成長してきた。先生と保護者が連携し、合理的配慮や支援を考えている。前任校では漢字が苦手な子には振り仮名をつけることで、問題を読んで自分で考えられるようにしており、いろいろな対応がある。

【大塩会長】細かいことにも合理的な配慮をしている。このような学校での取組みを出しな

がら具体的に話し合える場があると、とてもよい。子育て支援コンシェルジュはどのような事業か。

【永田委員】子育て支援コンシェルジュはこども部窓口に常駐しており、養成講座を修了した先生が様々な困りごとの相談に対応している。こどもセンターでの出張相談もしている。内容に応じてひまわり発達相談センターにも繋がっている。

【大塩会長】私は知らなかったが、周知などを知りたい。

【児玉委員】妊娠届の手続きの方も、転入や出生の手続きの方も、母子手帳室の前に子育て支援コンシェルジュに御案内いただいている。母子保健の取組みは安心して妊娠、出産、子育てと繋がる支援をみんな考えていきたい。連携している部分を発信していきたい。妊娠届の説明は20～30分の短い時間だが、お渡しするパンフレットにきらっといっぽの会作成ホームページの案内も入れており、振り返って読んだ時に使える。

【荒井委員】障がい福祉課では差別解消、合理的配慮の取組みをしている。聴覚障害者協会との手話講座、バーチャル・リアリティを使った自閉症の視聴覚体験講座など、新しいこともしている。昨年から放課後児童会の先生を対象に研修をしている。現場の先生から、学習の遅れや宿題の取組み、また、周りの子どもから聞かれたときにどう答えていくかといった疑問がいろいろある。子育て支援コンシェルジュの研修もしている。

【大塩会長】教育委員会とも連携してやっていけるとよい。

【荒井委員】教育、福祉の連携をやっていきたい。

【本宮委員】参考として、谷津連合町会の防災訓練のチラシをお渡しした。11月の秋祭りは声をかけてもらい、何人かの子どもに来ていただいた。喜んでいる姿もあった。今月の防災訓練は地震体験の起震車などもある。子どもの性質によるが、堅苦しい話でなく、いろいろ体験に参加してみて良い方向に行くとういと思、今回も声をかけた。

【太田委員】ソーシャル・インクルージョンの取組みの具体化を実感してきている。

【阿部副会長】連携という言葉を考えてみると、個別支援計画を始めて10年が経ち、続けると形のあるものが見えてくる。子ども・子育て支援事業計画も何年間とまとまった期間でやっていけると、形が見えてくるものがあると思う。

(1-②) ライフサポートファイルについて

習志野市発達支援サポートネットワーク会議 嶋野会長より資料3から5について説明。

【事務局(續主査)】資料3と4はモニターに御協力いただいた保護者から頂いたアンケート結果を取りまとめたものである。支援者にもアンケートを行い、また、研修で機会を作り説明をさせていただいた。反省点を活かし、啓発に取り組んでいきたい。

【嶋野委員】積極的に取り組んでいる保護者からは書き始めてよかったと感想を頂いているが、消極的な保護者もおり様々な要因があるため、それぞれに応じたアプローチが必要となる。支援者とその難しさを受け止めて、成功事例を蓄積して伝えられるようにしていきたい。

【本宮委員】最近までひまわり発達相談センター内で運用するのかと思っていた。第一中学校の支援学級の子たちは入学式など全部参加している。担任の先生方が毎年変わって

くが、その支援を繋いでいくために、保護者がこれを使って学校に説明することができる。ただ作っただけでは進まないの、教育委員会と連携しこれからの運用を考え、毎年改善をやっていく。

【大塩会長】モニター協力者の方々に熱心に取り組んでいただいて、ありがたい。4月までに改善できるところ、周知できるところがある。やっていく努力にかかっている。

【北田委員】教育委員会、学校、保護者の会議など説明に伺える機会があれば、是非一緒にやっていきたい。

【嶋野委員】学校現場では既に個別の教育支援計画に取り組んでいる。今の取組みもあるので、新しく始める方や希望がある方から切り替えていくことを考えている。

【大塩会長】個別の教育支援計画は支援学級の子に作っているのか。

【嶋野委員】支援学級と通常学級の必要な子について作っている。

【本宮委員】学校で作ったものをファイルに入れて、良いように作っていくということか。

【大塩会長】この他にも成育歴や医療の情報などを入れられる。

【阿部副会長】基礎年金申請時に受診歴の記録をつけたものや母子手帳などもファイルに入れてみた。新たに書くことはしないで、今、手元に持っているものを入れて、自分に合ったものにしていく。まだ整っていないが、家族の記録とオフィシャルな記録を分けることも考えている。

【太田委員】幼稚園や小中学校では今取り組んでいる支援計画を入れられる。

【大塩会長】分かりやすく具体例を入れていくようにしたい。

(1-③) きらっといっぼの会の活動について

【伊藤委員】あじさい療育支援センターの保護者会に参加した。保護者20人程度参加しており、自己紹介、自分の気持ち、子どもや将来のことなどで時間いっぱいだった。事前に話し合いのキーワードを考えていったが、安全な場所で聞いてもらえて、自分の気持ちを話したいのだと思った。子どもの見通しと、また、お母さん自身が自分の見通しを持っていける部分もあると思った。私も子どもが小さい頃は勿論分からないことや辛いこともあった。昨年からは保護者会に行くようになり、年1回程度続けていきたい。

【阿部副会長】保護者が集まる機会が減っているが、話したい思いもある。

【遠藤委員】機関紙ならたくを通じてホームページを広く伝えられるチャンスを頂き、ありがたい。掲載内容を作っていく過程は悩みの連続だった。孤独感のある保護者に体験談を届けていくことを大事にしていきたい。行政からの情報だけでなく、保護者だから知りたいことや不安なことを体験談として伝えていきたい。今後、活動が広くなれば、別のアナウンスもしていける。

【松尾委員】地域での共生を目的として、いろいろな人が習志野市に住んでいることを知っていただくきっかけとなって、お役に立てればと思った。障がいを前面にした紙面への掲載は悩みもあったと思う。我々も考えさせられるところがあった。

【大塩会長】2017年から頑張っている。

【本宮委員】情報が埋もれていかないように、まちづくり会議などの場でアピールしていく

ことが大切である。どんどん出して行ってほしい。縦割りを廃止して、横の連携をして、一歩一歩やっていきたい。

【大塩会長】今週、秋津のまちづくり会議があり、地域の施設から参加して話をする機会がある。各まちづくり会議にも同様にあり、広がる。

(2) ひまわり発達相談センター評価部会（市民委員）

(2-①) ひまわり発達相談センターの事業実績及び保護者アンケートの結果報告

ひまわり発達相談センター 北田所長より資料1から4について説明。

【北田委員】利用者状況は前年度より増える見込みで、言葉が出ないなど年少の子どもの相談が多い傾向がある。今年度ひまわり発達相談センターでは初回相談から2回目相談の時間短縮に取り組んでいる。また、グループ指導に保護者面談の時間を設けている。個別支援計画の作成、巡回相談、講師派遣型研修について民間施設への実施もできている。保護者の仲間づくりは人数が少し減っており、周知を考えたい。

【本宮委員】どのようにセンターを知って相談に来るのか。市役所から来るのか。

【北田委員】直接来る場合が多い。市内の幼稚園・保育所・こども園・小中学校の全児童・生徒に毎年チラシを配布している。数年前の調査結果では、ひまわり発達相談センターの市民の認知率が6割程度であった。

【本宮委員】習志野特別支援学校はどこにあるのか。

【上野委員】5年前に袖ヶ浦東小学校内にでき、知的障がいの子どもなど41名がいる。

【本宮委員】増やしたいと聞いたことがあるが、どういうことか。

【大塩会長】近隣の船橋市、八千代市、千葉市などにはあるが、習志野市にはなかった。5年前に習志野特別支援学校ができ、小学部が実現した。

【上野委員】習志野市に小学部はあるが、中学部や高等部は市外の学校に通うことになる。このため、市内に中学部や高等部も作ってほしいという要望はある。習志野特別支援学校は年2回見学会を行っている。

【大塩委員】開かれた学校づくり委員会の委員を務めている。地域と関わりがある。

【伊藤委員】育成会では要望しており、少しずつ市も動いている。なるべく早くできるようにと思っている。

【北田委員】保護者アンケートの集計結果では、保護者から子どものできること、できないことなど気づきを得られたなど御意見を頂いた。今年度は指導内容を保護者が家庭で活かせるように説明して取り組んでいる。厳しい御意見も率直に書いていただいている。

【大塩会長】全体的に職員の姿勢を高く評価いただいている。励みや助けになっているという記載もある。保護者の仲間づくりは頂いた御意見に焦点を当てていけるとよい。

【太田委員】センターの在り方、課題として何を考えているか。就学前の子どもの支援にあたって今後どういう構想なのか。もしかして転換期なのではないか。

【北田委員】令和元年度は相談・指導体制の充実、施設への巡回相談や研修の充実、教育委員会との個別支援計画やライフサポートファイルなど引継ぎの充実に重点的に取り組んできた。初回相談から2週間以内に2回目相談ができるように、また、指導に繋がるま

での時間を短縮できるように受け止めて、市民が困らない対応に努めてきた。所属機関での活動や、地域で育つことが大切であり、見守りできる体制づくりをしていきたい。

【太田委員】どこの市町村も相談件数が増えており、対応できる件数の上限が来ることも想定して、次を考える。文科省の調査で、習志野市の保育所で面接調査を行ったが、巡回相談への期待がかなり高く、今後伸びていくところである。各園での専門性を高めるために研修強化の方針が国から出ている。ソーシャル・インクルージョンの視点から地域で考えていけることもあるのか。センターの力をどう地域で活かすか。市全体も、各地域も、考える時機である。

【田村委員】保護者同士の繋がりがなかなかできない。全部をセンターですることは難しい。地域で保護者が話し合える場所や、園や学校が繋がって周りが支えていく面などが必要となる。いろいろ地域に出していける部分もある。また、保育園から先生を研修に出すことが難しいこともあるため、保育園で研修をしていく形は良い。各園の役割はとても大きい。

【太田委員】自由記述欄に書いていただいている内容は財産である。当事者のニーズや思いがあり、どう解消していくかの部分が潜んでいる。インフォーマルな学習会など、策も練っていかないといけない。

【大塩会長】保護者の記述をきめこまかく受け止め、いろいろなケースを集約し、ここから活かせるものがある。

【本宮委員】アンケートから何を読み取るか難しい。どう改善していくか。職員のレベルアップや定着率も考えていく。

【小澤部長】今年度、次期子ども・子育て支援事業計画の策定に向けて御意見を頂き、子ども施策の上位計画であり、支援が必要な子の視点を盛り込めたことは大きな一歩である。どう支援をしていくか、毎年検証して取りまとめて改善していきたい。また、保護者アンケートの自由記述欄の御意見は有る無いだけでなく、語りたいことが入っている。センターの在り方や方向性が変わる時機であるとも思う。件数が非常に多い中で、相談をセンターだけで完結していくは難しい。こども部に移り、就学前施設がスムーズに繋がってきて、学校にどう繋がっていくか。就学に向けたセンターの役割を考えていきたい。ひとつひとつの意見が重要で、今後も御力を頂きたい。

7. 所管課名 こども部 ひまわり発達相談センター